



九州支部「第21回九州支部熊本大会」報告

第21回日本生物工学会九州支部熊本大会が2014年12月6日(土)に熊本大学黒髪南キャンパスにて開催されました。参加者数は昨年の佐賀大会とほぼ同じ191名(一般84名, 学生107名), 講演数は94題(一般講演は77題, 学生賞講演は17題)に達し, 一般講演は午前の部と午後の部を3会場で, 学生賞講演も午前の部と午後の部を1会場で行いました。タイトなスケジュールではありましたが, どの会場も熱心な質疑討論が行われました。また, 昼の休憩時間には支部評議員会が開催されました。お忙しい中, 座長ならびに学生賞審査をご担当いただいた諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

13時20分から開催した特別講演では, 会長の園元謙二先生から「生物工学の研究: 好奇心と共に」と題して, 特に学生や若手の研究者に向けて, ご自身が若いときに経験し考えてこられたことを紹介されながらご講演いただきました。引き続き, 熊本大学大学院生命科学研究部の太田訓正先生から「乳酸菌由来物質による多能性細胞の創造」の演題でこれまでに実施してこられた研究の概要から多能性細胞に関する最新のデータまで含めてご講演いただきました。お二人の先生から熱く示唆に富んだメッセージをいただき, あっという間に時間が過ぎました。

18時からは熊本大学FORICOにおいてミキサーを行いました。多くの発表がありましたので例年よりも遅い時間の開始でしたが, 学生を含めて多くの参加者がありました。実行委員長からの挨拶に続き, 熊本大学工学部村山伸樹学部長による祝辞, 安部淳一支部長の挨拶, 続いて園元謙二会長の乾杯のご発声を頂戴しました。熊本を代表する球磨焼酎各メーカー自慢の製品と料理を楽しんでいただきました。美味しいお酒をいただきながら, 所属や年代を超えて若手研究者・学生・企業人を交えたミキサーで交流が深められました。このミキサーの中で, 学生表彰が行われました。本年度の受賞者は5名で, 博士の部は相馬悠希さん(九大院・農)「人工遺伝子回路による代謝流束制御を用いた大腸菌でのイソプロパノール生産」, 修士の部は, 吉永 将さん(九大院・生資環)「ピルビン酸転移酵素変異体を用いた新奇ピルビン酸含有糖鎖の酵素合成」, 藤木真優さん(九大院・生資環)「分裂酵母のゲノム情報を活用した新しい異種タンパク質生産系の構築」, 野口 萌さん(九大院・農)「異常アミノ酸導入酵素NukMの機能解析とランチビオティック工学への展開」, 西村聡太さん(九大院・化工)「細胞包埋肝特異的マトリックスゲルの移植および肝機能発現評価」の4名でした。安部支部長から各受賞者に賞状と記念品の贈呈が行われ, 受賞者本人から一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。さらに, 第66回日本生物工学会で照井賞を受賞された田代先生, 論文賞を受賞された神谷先生, 井嶋先生の紹介が行われ, 先生方からも今後の抱負を述べていただきました。

2015年度は, 10月26日から28日にかけて酒井謙二先生を実行委員長として鹿児島・城山観光ホテルで全国大会が開催され, 12月5日に宮崎大学 太田一良先生を中心に宮崎で支部大会の開催を予定しております。全国大会, 支部大会ともに, 多くの皆様のご参加をお待ちしております。(森村 茂)



特別講演の様子



学生賞受賞者の面々